

日文の高校工芸・美術教科書ラインアップ



NEW

工芸I
116-日文 工I-701
[監査者]
横田学 尾澤勇
原島秀行 平野信子



工芸II

116-日文 工II-301
[監査者]
小松敏明
[著者]
長濱雅彦 川野辺洋



NEW

高校生の美術1
116-日文 美I-702
[著者]
村上尚徳 横田学
安田淳 中村美知枝
末房貞樹 三井直樹



NEW

高校美術
116-日文 美I-703
[著者]
清田哲男 内藤正人
長濱雅彦 坂上桂子
三井直樹 来嶋路子
中野滋



高校生の美術2

116-日文 美II-304
[著者] 村上尚徳 横田学
安田淳 中村美知枝
末房貞樹 三井直樹 中野滋



高校生の美術3

116-日文 美III-304
[著者] 村上尚徳 横田学
安田淳 中村美知枝



高校美術2

116-日文 美II-302
[監査者] 永井一正 木島俊介
[著者] 原研哉 近藤幸夫
末房貞樹 中野滋 宇野義行
内藤正人 三井直樹 橋本麻里



高校美術3

116-日文 美III-302
[監査者] 永井一正 木島俊介
[著者] 原研哉 近藤幸夫
末房貞樹 中野滋 宇野義行
内藤正人 三井直樹 橋本麻里

令和4年(2022年)度版 高等学校芸術科工芸 内容解説資料

116
日文

教科書 記号・番号

工芸I 工I-701

編集 株式会社Playce
デザイン 株式会社マザー
写真 株式会社ブリッジ

本書の無断転載・複製を禁じます。
CD22292

日本文教出版 株式会社
<https://www.nichibun-g.co.jp/>

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618
大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938
東海支社 〒461-0004 名古屋市中区葵1-13-18-7F-B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690

人の手仕事から生まれる
伝統と文化を学ぶ教科書

工芸 I



日本文教出版

本資料は内容解説資料として、一般
社団法人教科書協会「教科書発行者
行動規範」に則っております。

日本文教出版情報

詳しくはWebへ!

日文

検索



※本冊子掲載QRコードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
※QRコードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です。

日本文教出版

「素材」から学ぶ 工芸の教科書

工芸と自然や社会の関わり、身近なものの形や大きさや機能の関係などを知ることで、生活の中に息づく「工芸」に親しんでほしいという想いを込めて、この教科書をつくりました。題材は、高校生に身近な自然や暮らしの中から設定しているため、より工芸との関わりを実感することができます。

「素材」

を深く理解する

工芸の三大素材「木」「金（金属）」「土」を中心に、多くの学校で取り組まれている題材を積極的に掲載。素材や技法に対する理解を深めるために、素材の特徴や制作プロセスを丁寧に紹介しています。

素材と技法 土

土の性質や質感、焼き物による表現の特徴を捉え、用途と美の調和などを考え、鑑賞や制作をしてみよう。

私たちの祖先は、身近な土を素材に、様々なものをつくってきた。日本の焼き物の歴史については、縄文土器までさかのぼり、現在も全国各地で焼き物がつくりだされている。特に食器では、食事を演出する様々な色や形の陶磁器が使われ、さらに、日本の伝統文化である茶道や華道においても、大切な役割を果たしている。

素材の特色

土の特性としては、外から力を加えると容易に変形し、その形を保持する性質が挙げられるが、これを可塑性と書く。焼き物は土の性質や焼成方法などによって、土質・器種・用途・装飾に分けられ、それぞれ異なるような違いが見られる。

土の種類と特徴	土器	磁器	陶器	磁器
原料	土 (灰化土・粘土)	土	陶石	陶石
焼成温度	600~800度	1200~1300度	1100~1250度	1300~1400度
焼成方法	酸化焼成	酸化焼成	還元・酸化焼成	還元焼成
色	茶色	黒	白・黄・赤	黒
質感	粗い	滑らか	粗い	滑らか
用途	食器・土器	食器・磁器	食器・陶器	食器・磁器
主な産地や例	縄文・土器	瀬戸・土器	伊賀・陶器	瀬戸・土器



焼き物の一般的な工程



1 採土 焼き物づくりは、土を採取することから始まる。産地であれば、基本的には土層から採ってたたきつぶす。土質や水分の割合によって、乾燥の仕方が異なる。

2 土練り 土の練り方の異なる土を均質化する練り方(其練り)と、内部の気泡を取り除く練り方(其練り)がある。土練りしつづけていくうちに、練り物の水分がたたり、練りたたりするようになる。

3 成形 絞成り成形の他、半びねり(陶土の塊から手で伸ばす)、ひもづり(陶土の塊を絞成りに巻く)、ねづり(くわで土を削りながら成形する)など、様々な成形方法がある。

検索ワード

- 検索ワード
- 陶石
- 民窯
- 磁器
- たたら

題材に関連したキーワードや基礎用語を、多角的な視点からピックアップし、紹介しています。興味の幅を広げるきっかけになるだけでなく、自ら調べ考える、主体的な学習習慣を身に付けることができます。

様々な成形方法



4 加飾 土の加飾の方法は主に2つあり、色のある土器に施すものと、無地の土器に施すものがある。加飾には、土の表面に模様や文字を施す方法などがある。

5 乾燥 成形、加飾が終わった土器は、水分を完全に蒸発させるまで乾燥させる。乾燥の程度は、器種や用途によって異なる。乾燥が不十分だと、焼成時に割れることがある。

6 素焼き 十分に乾燥させた土器は、素焼き(700~800度)で焼成する。素焼きは、器の強度を高め、水や油に強い性質を付与する。また、素焼きは、器の表面を滑らかにし、釉掛けの準備を整える。

7 (下)絵付け 素焼きした土器の表面に、絵付けをする。絵付けには、絵付け液や絵付け筆などを用いる。絵付けは、器の装飾性を高める。

8 施釉 素焼きした土器の表面に、釉掛けをする。釉掛けには、釉掛け液や釉掛け筆などを用いる。釉掛けは、器の表面を滑らかにし、色や模様を付ける。

9 焼成 素焼きした土器は、最終的な焼成(1000~1400度)で焼成する。最終的な焼成は、器の強度を高め、釉掛けを完成させる。

調べてみよう・考えてみよう

- 調べてみよう
- 調べてみよう
- 調べてみよう
- 調べてみよう

そのページで学んだ題材についてさらに深く調べたり、「なぜ?」「どうして?」と考えたりできるような「問い」を用意しています。生徒同士で話し合うテーマとすることもでき、主体的で対話的な深い学びにつなげることができます。

「伝統」

のよさを知る

漆などの生活に息づく我が国の伝統工芸、日本の工芸と万博、柳宗悦と民藝運動など、知識を学びながら、「工芸のよさ」が実感できるように図版や解説を充実させました。

漆

漆の特質や制作工程、表現技法などに着目し、漆工芸の美しさについて考えを深めてみよう。

漆は漆の木の樹液を加工した天然樹脂塗料である。空気中の水分と反応して硬化する性質を持つ漆による工芸は、日本の温帯な気候や風土と適合している。漆工芸は髹塗や蒔きなどの加飾の種類が豊富である。使い続けるうちに透明感や光沢感が増すが、紫外線や乾燥に弱いという特色がある。

漆器ができるまで

① 漆かき 漆の木の樹液を削り取って、にじみ出る樹液(成分の約8割がウルシオール)を濾して取り除く。漆の水分を調整し、乾燥させる。漆の水分を調整し、乾燥させる。

② 木地づくり 伝統的な漆器は、木地、漆、髹塗などの分量でつくられる。木地づくりの工程は、木地を削り出し、漆を塗る。木地づくりの工程は、木地を削り出し、漆を塗る。

③ 塗る 塗りの工程では、下塗り、中塗り、上塗りなど、何層も塗り重ねる。塗りの工程では、下塗り、中塗り、上塗りなど、何層も塗り重ねる。

漆の乾燥方法

一般的に、ものも乾燥させるには熱や風を当てて温度を下げるが、漆の場合は反対で、適度な湿度(70~85%)が必要。これは漆の木の樹液に含まれる酵素(ウルシオール)が、空気中の水分から酵素を取り込むことでウルシオールが硬化するから。漆の乾燥には、「漆室」「漆風呂」と呼ばれる技法が使われる。

4 加飾

髹塗や蒔きなどを塗り重ねる場合が多いが、漆には心のこもった加飾もある。加飾には、金や銀を施す加飾や、色や模様を施す加飾などがある。

① 髹塗 漆の表面に色や模様を施す。髹塗には、色や模様を施す加飾などがある。

② 蒔き 漆の表面に色や模様を施す。蒔きには、色や模様を施す加飾などがある。

③ 髹塗 漆の表面に色や模様を施す。髹塗には、色や模様を施す加飾などがある。

④ 蒔き 漆の表面に色や模様を施す。蒔きには、色や模様を施す加飾などがある。

⑤ 髹塗 漆の表面に色や模様を施す。髹塗には、色や模様を施す加飾などがある。

⑥ 蒔き 漆の表面に色や模様を施す。蒔きには、色や模様を施す加飾などがある。

⑦ 髹塗 漆の表面に色や模様を施す。髹塗には、色や模様を施す加飾などがある。

⑧ 蒔き 漆の表面に色や模様を施す。蒔きには、色や模様を施す加飾などがある。

⑨ 髹塗 漆の表面に色や模様を施す。髹塗には、色や模様を施す加飾などがある。

⑩ 蒔き 漆の表面に色や模様を施す。蒔きには、色や模様を施す加飾などがある。

⑪ 髹塗 漆の表面に色や模様を施す。髹塗には、色や模様を施す加飾などがある。

⑫ 蒔き 漆の表面に色や模様を施す。蒔きには、色や模様を施す加飾などがある。

⑬ 髹塗 漆の表面に色や模様を施す。髹塗には、色や模様を施す加飾などがある。

⑭ 蒔き 漆の表面に色や模様を施す。蒔きには、色や模様を施す加飾などがある。

⑮ 髹塗 漆の表面に色や模様を施す。髹塗には、色や模様を施す加飾などがある。

⑯ 蒔き 漆の表面に色や模様を施す。蒔きには、色や模様を施す加飾などがある。

⑰ 髹塗 漆の表面に色や模様を施す。髹塗には、色や模様を施す加飾などがある。

⑱ 蒔き 漆の表面に色や模様を施す。蒔きには、色や模様を施す加飾などがある。

⑲ 髹塗 漆の表面に色や模様を施す。髹塗には、色や模様を施す加飾などがある。

⑳ 蒔き 漆の表面に色や模様を施す。蒔きには、色や模様を施す加飾などがある。

QRコード

スマートフォンやタブレットで読み取ると、そのページで紹介した作品の拡大図や、制作者のインタビュー動画、制作プロセスなどをインターネット上で見ることができます。デジタルを活用する教育にも対応可能です。

✓ CHECK 表紙について

表紙は、長い間「人の手仕事」によって受け継がれてきた「工芸」をイメージして作成しました。素材に触れ、素材を理解し、試行錯誤を繰り返しながら表現することで、工芸の伝統と文化を知ってほしいという想いを込めています。



令和4年度使用 工芸Ⅰ (116-日文 工I-701)

1 学習指導要領との関連

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
学習指導要領全般	●学習指導要領が示す「芸術科」の目標及び内容を踏まえ、生徒の「芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力」を育成できるように、幅広い視点から題材を設定した。	●教科書全般
「工芸Ⅰ」の目標との関連	●学習指導要領が示す「工芸Ⅰ」の目標及び内容を踏まえ、生徒の「造形的な見方・考え方を働かせ」「美的体験」を重ね「生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力」を育成できるように、適切に題材を選択し配列した。 ●題材の設定については、中学校美術の基礎の上に立ち、高校生の造形的な発達に応じた取り扱いができるように配慮した。	●教科書全般
表現及び鑑賞の活動の取り扱い	●全ての題材で表現と鑑賞を一体的に学習できるよう配慮し、表現題材（演習）においても鑑賞活動を一体化させた。 ●表現題材（演習）では、「発想や構想に関する資質・能力」を育むために作例を多く示し、制作過程などを示して「技能に関する資質・能力」をも身に付くよう配慮した。 ●鑑賞題材では「工芸作品などに関する」鑑賞だけではなく、「生活や社会における工芸の働きや工芸の伝統と文化に関する」鑑賞にも重点を置き、作品を精選した。	●教科書全般

2 資質・能力の三つの柱との関連

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
知識及び技能の習得	●題材のねらい、主文、作品解説などを〔共通事項〕（知識）への意識を促す内容とし、学習を通して造形的な見方・考え方を深められるよう配慮した。 ●題材に固有な技法、プロセス、原理などは各題材ページで解説し、様々な表現の基礎的な内容となる道具や知識などについては、巻末の資料ページにまとめて学習に役立つように工夫した。 ●色彩については、各素材そのものの色や技法の違いによる色の変化を対比して参照できるようにし、知識理解を深め活用するための資料として巻末にまとめた。	●教科書全般 ●8,9,13,16,17,19,20,21,22,23,25,26,27,29,30,31,33,34,35,37 ●44,45
思考力、判断力、表現能力等の育成	●題材の本文などに見方や感じ方、考えなどの学びの視点を盛り込み、見方や感じ方を豊かにしながら、新たなものの捉え方や主題生成などができるようにした。 ●演習ページでは、題材を学習する上で必要になる素材の特徴や材料用具の扱いや制作過程などの技法について示し、それに対応させて鑑賞図版及び表現課題を示すことにより、表現と鑑賞を一体的に扱えるよう工夫した。 ●演習ページでは、スケッチや制作過程などを多く掲載して、表現活動を行うに当たって、発想や構想の手がかりになるように配慮した。	●教科書全般
実感を伴う鑑賞活動への配慮	●素材の質感を体感したり、作者の表現の工夫が読み取れたりするように、できるだけ大きく作品を掲載するよう配慮した。 ●工芸と自然の関わり、工芸の形や大きさや機能の関わりに目を向け身の回りのものを観察するなど、身近な自然や生活の中から鑑賞題材を設定し、生活の中で工芸を意識し実感できるよう工夫した。	●教科書全般 ●4-13
学びに向かう力、人間性等の涵養	●各題材の本文を簡潔にして、学習のねらいや学びの目標を明確に示し学習に主体的に取り組めるように工夫した。 ●生徒が生涯にわたって、工芸を愛好する心情や豊かな感性を育めるように、巻頭と巻末にオリエンテーションのページを設けた。	●教科書全般 ●2,3,46,47

3 学習効果への配慮

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
編集意図の新鮮さ・明確さ	●全体を鑑賞と演習（表現・鑑賞）で構成し、それぞれ「目」のマークと「手」のマークで示して、内容が分かりやすいように工夫した。 ●各題材に「ねらい」マークで学習のねらいを示し、関連する用語は「検索ワード」マークで、発展的な学習内容は「調べてみよう」「考えてみよう」マークで示した。 ●QRコードを必要に応じて入れ、機器で読み取ると当該ページに関連する資料や動画などを参照できるよう工夫した。 ●「用途と道具」「制作のための知識」「安全管理」「製図」「工芸の色」を巻末に資料としてまとめ、各題材と関連して使用できるよう工夫した。	●教科書全般 ●教科書全般 ●15,17,19,21,25,27,29,31,41 ●40-45
内容の程度、正確性への配慮	●構造図や説明図、原理図、下絵、アイデアスケッチなどを多く掲載して、作品を表現したり鑑賞したりする際の参考となるように工夫した。 ●日本人作家、撮影者、読みにくい作品名、日常あまり使われない工芸用語などには振り仮名を付けるなどして、学習に役立つよう配慮した。 ●作品と作家の情報は、詳しく、正確で、分かりやすい表記を心がけた。	●教科書全般
他教科や中学校美術科との関連	●国語や歴史などの教科書に掲載されている工芸作家や作品、化学の酸化と還元など他教科で取り上げられている内容を紙面に反映させた。 ●木工、金工、陶芸など中学校美術科の内容を受けて、生徒の造形的な能力の発達に応じた取り扱いができるように工夫した。	●教科書全般 ●教科書全般
主体的・対話的で深い学びとの関連	●各ページ下に「検索ワード」「調べてみよう」「考えてみよう」などを設け、教科書内容と関連する事項や興味・関心のある事柄を主体的に学習できるようにした。	●教科書全般
時代への適応性及び環境への視点	●現在活躍している作家の作品を掲載したり、作家へのインタビューページを設けたりするなど、高校生に工芸への親近感を持ってもらえるように工夫した。 ●「工芸と自然のかかわり」「工芸と風土や素材」などの題材を設定し、環境や身近な工芸品への意識が高まるように配慮した。	●教科書全般, 14,15 ●4,5,6,7
人権尊重などへの視点	●他者との学び合いや話し合いの場を通して、学びの中から男女の平等、自他の敬愛を重んずる心情を育てるよう題材の設定や掲載作品の選択に配慮した。 ●題材名の表記は、色地と大きめの墨文字でコントラストを付けるなど、カラーユニバーサルデザインにも配慮した。	●教科書全般, 13 ●教科書全般
知的財産権や肖像権に関する配慮	●自己や他者の作品を尊重する態度を育み、工芸に関する知的財産権などについての理解を深められるように、「著作権について」を解説した。	●46
我が国及び諸外国の工芸文化についての視点	●日本や諸外国の工芸の鑑賞題材の充実を図るとともに、特に漆などの生活に息づく我が国の伝統工芸や日本の工芸と万博、柳宗悦と民藝運動等の題材ページについて、知識等を学びながらよさが実感できるように図版や解説を充実させた。	●6,7,20,21,38,39

4 造本・体裁

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
印刷	●工芸の教科書にふさわしく、作品のよさが正しく伝わるように、鮮明で美しい印刷を心がけた。印刷用紙も印刷に最適な用紙を厳選した。	●教科書全般
製本	●判型はA4判とし、製本方式は、折ごとに糸でかがり表紙をつける形式で、破れにくく堅牢な造本にした。	●教科書全般
安全性について	●印刷は生徒のアレルギーなどを考慮して植物性インキを使用した。また、表紙の表面加工にも配慮し、教科書を使用するに当たっての健康上の安全性に留意した。	●教科書全般
環境への配慮	●用紙は、表紙・本文とも再生紙を使用し、環境への配慮を十分にした。	●教科書全般

※時数については、法定時数を基に計画しており、実時数はもう少し減るとされる。
 ※題材名は、関連する教科書の題材ページを基に独自に設定した例で、教科書の目次にある題材名とは異なっている。

3学期制の年間指導計画例

学期	月	時数	題材	学習内容	教科書ページ		
1学期	4	2	【B鑑賞】 ○オリエンテーション ・創作活動としての工芸 ○人間と道具 ○工芸と自然とのかかわり ○工芸と風土や素材 ○多様な美意識	○オリエンテーション ・工芸Iの学習内容のイメージを持ち、工芸と生活の関わりについて考える	2-7 10,11		
	5	8	【A表現】(1)(2) ○工芸のかたち 大きさと機能 ○アイデアを形に ○製図 ・投影図法(三面図)について ・演習問題	○工芸の形と発想・構想 ・大きさと機能との関係について考察する ・発想や構想した事を形に表す方法 投影図法で表す 三面図で表す ・演習問題を行いながら学習する (小テストを実施し、学習状況を測る)	8,9 12,13 42,43		
	6	16	【A表現】(2) 社会と工芸 【B鑑賞】 ○「使い手を想定したツール」の制作 ○身の回りのものを観察する ・企画書 ・アイデアスケッチ ・設計図(三面図) ○素材と技法 木 ・指物の工程について	○社会的な視点に立ったものづくり ・使う人や実際に使用する場面、求められる機能や条件などを企画書にまとめて考え、発想する ・ツールの機能や条件を整理し、造形要素や構造を考え構想を練る ・投影図法を用い、ツールのデザインを三面図にまとめる ・木や用具の特性を生かし、効果的な手順や技法などを検討して制作をする	8,9 12,13 16-19 40-44		
7	8		夏季課題 美術館、工芸館などを見学し、感想をレポートにまとめる				
2学期	9	28	【A表現】(1)身近な生活と工芸 【B鑑賞】 ○「スマートフォンを置くスタンド」の制作 ○身の回りのものを観察する ・企画書 ・アイデアスケッチ ・型紙 ○素材と技法 金属 ・鍛金の工程について	○身近な生活の視点に立ったものづくり ・鍛金の工程について学ぶ ・自己の思いなどから心豊かな、発想をする ・スタンドとしての用途と美しさの調和を考え、構想を練る ・アイデアスケッチを基に型紙を制作する ・銅板や用具の特性を生かし、効果的な手順や技法などを検討して制作をする	8,9 12,13 22-25 40-43 45		
	10		14	【A表現】(1) 身近な生活と工芸 【B鑑賞】 ○「七宝焼きのプローチ」の制作 ・企画書 ・アイデアスケッチ ・型紙 ○素材と技法 七宝	○身近な生活の視点に立ったものづくり ・七宝焼きの工程について学ぶ ・自己の思いなどから、心豊かな発想をする ・プローチとしての用途と美しさの調和を考え、構想を練る ・アイデアスケッチを基に型紙を制作する ・七宝焼きの釉薬や用具の特性を生かし、効果的な手順や技法などを検討して制作をする	12,13 36,37 40-43 45	
	11			1	【A表現】(1) 身近な生活と工芸 【B鑑賞】 ○「七宝焼きの加飾」について学ぶ(浮き彫りと透かし彫り) ・制作全体を見直し、意図に応じて桂板や用具を生かすとともに、効果的な制作手順や制作に適した技法などを吟味し、工夫しながら木彫制作をする ・塗装について理解を深めるとともに工程について学ぶ	・木彫の加飾について学ぶ(浮き彫りと透かし彫り) ・制作全体を見直し、意図に応じて桂板や用具を生かすとともに、効果的な制作手順や制作に適した技法などを吟味し、工夫しながら木彫制作をする ・塗装について理解を深めるとともに工程について学ぶ	12,13 16-19 40-44
	12				【B鑑賞】 ・合評会 ・鑑賞	○価値意識を持って工芸のよさや美しさを感じ取る ・生徒作品や工芸作品などの見方や感じ方を深める ・生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化についての見方や感じ方を深める	全ページ
3学期	1	18	【A表現】(1) 身近な生活と工芸 【B鑑賞】 ○素材と技法 木 ・木彫部分の制作 ・加飾について(浮き彫り・透かし彫り) ・仕上げの塗装	○身近な生活の視点に立ったものづくり ・木彫の加飾について学ぶ(浮き彫りと透かし彫り) ・制作全体を見直し、意図に応じて桂板や用具を生かすとともに、効果的な制作手順や制作に適した技法などを吟味し、工夫しながら木彫制作をする ・塗装について理解を深めるとともに工程について学ぶ	12,13 16-19 40-44		
	2		【B鑑賞】 ・合評会 ・鑑賞	○価値意識を持って工芸のよさや美しさを感じ取る ・生徒作品や工芸作品などの見方や感じ方を深める ・生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化についての見方や感じ方を深める	全ページ		
	3	2	【B鑑賞】 ・合評会 ・鑑賞	○価値意識を持って工芸のよさや美しさを感じ取る ・生徒作品や工芸作品などの見方や感じ方を深める ・生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化についての見方や感じ方を深める	全ページ		

2期制の年間指導計画例

期	月	時	題材	学習内容	教科書のページ	
前期	4	2	【B鑑賞】 ○オリエンテーション ・創作活動としての工芸 ○人間と道具 ○工芸と自然とのかかわり ○工芸と風土や素材 ○多様な美意識	○オリエンテーション ・工芸Iの学習内容のイメージを持ち、工芸と生活の関わりについて考える	2-7 10,11	
	5	8	【A表現】(1)(2) ○工芸のかたち 大きさと機能 ○アイデアを形に ○製図 ・投影図法について ・演習問題 ・三面図について	○工芸の形と発想・構想 ・大きさと機能との関係について考察する ・発想や構想した事を形に表す方法 投影図法で表す 三面図で表す ・演習問題を行いながら学習する (小テストを実施し、学習状況を測る)	8,9 12,13 42,43	
	6	18	【A表現】(2) 社会と工芸 【B鑑賞】 ○「使い手を想定したカップとソーサー」の制作 ○身の回りのものを観察する ・企画書 ・アイデアスケッチ ・設計図(二面図or三面図) ○素材と技法 土 ・陶芸の工程について ※乾燥後、焼成	○社会的な視点に立ったものづくり ・カップの取っ手のイメージなどをグループで考え、話し合う ・使う人や実際に使用する場面、求められる機能や条件などを企画書にまとめて考え、発想する ・機能や条件を整理し、造形要素や構造を考え構想を練る ・投影図法を用い、カップとソーサーのデザインを二面図(三面図)にまとめる ・粘土や用具の特性を生かし、効果的な手順や技法などを検討して制作をする ※素焼きは、夏季休業中に実施する	2,3 8,9 12,13 26-29 42-44	
	7		8	夏季課題 美術館、工芸館などを見学し、感想をレポートにまとめる		
	8	2	・絵付け、施釉	・素焼き後の作品に、下絵付けや釉掛けをする	26-29	
	後期	10	20	【A表現】(1) 身近な生活と工芸 【B鑑賞】 「七宝焼き装飾木彫時計」の制作 ○素材と技法 七宝 ・七宝部分の制作(時計の文字盤部分)	○身近な生活の視点に立ったものづくり ・木彫の板材に七宝焼きをはめ込んだ時計の制作条件や制作工程について見直しを持つ ・七宝焼きの工程について学ぶ ・七宝焼き装飾木彫時計に求められる機能や条件、美しさなどを整理し、形や色彩、材質などの造形要素や構造、素材の生かし方などについて考え、心豊かに発想し、制作の構想を練る ・七宝焼きの特性を生かし、効果的な手順や技法などを検討して制作をする	12,13 36,37 40-43 45
11		1		【A表現】(1) 身近な生活と工芸 【B鑑賞】 ○素材と技法 木 ・木彫部分の制作 ・加飾について(浮き彫り・透かし彫り) ・仕上げの塗装	・木彫の加飾について学ぶ(浮き彫りと透かし彫り) ・制作全体を見直し、意図に応じて桂板や用具を生かすとともに、効果的な制作手順や制作に適した技法などを吟味し、工夫しながら木彫制作をする ・塗装について理解を深めるとともに工程について学ぶ	12,13 16-19 40-44
12				【B鑑賞】 ・合評会 ・鑑賞	○価値意識を持って工芸のよさや美しさを感じ取る ・生徒作品や工芸作品などの見方や感じ方を深める ・生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化についての見方や感じ方を深める	全ページ
1		2	【B鑑賞】 ・合評会 ・鑑賞	○価値意識を持って工芸のよさや美しさを感じ取る ・生徒作品や工芸作品などの見方や感じ方を深める ・生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化についての見方や感じ方を深める	全ページ	